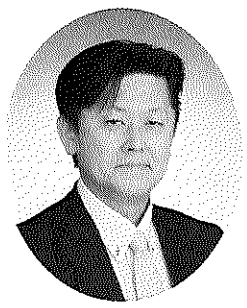
都留高ＰＴＡだより

平成30年3月1日発行
都留高校ＰＴＡ
印刷㈱大月プリント社

都留高は一日にしてならず

ＰＴＡ会長　天野　慎一

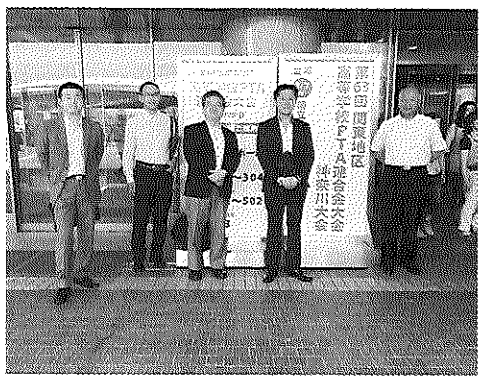


平素は本校ＰＴＡ活動に御理解と御協力を賜り、誠にありがとうございます。４月の総会で承認を頂きＰＴＡ会長を務めさせていただいております天野です。山梨県高Ｐ連副会長としての大役も仰せつかっている中で、県内各校のＰＴＡ会長さんや先生方とも、情報交換やＰＴＡ活動について勉強をさせて頂いております。

さて、現在の学校を取り巻く環境はグローバル化の進展、ＩＣＴの加速的発展、ＡＩやロボット技術の進化など、かつてないスピードで世の中が変革しており、そこで求められる人材や働き方も大きく変わると予想されていることから、進路指導やキャリア教育の在り方も見直されております。また、教育現場に於いては、２０２０年の高大接続改革と呼ばれる教育改革が迫っており、教職員の働き方改革の進展により、ここ数年で学校が大きく様変わりすると予測されます。そのような中で、生徒たちにより良い環境を維持していくためには学校、家庭、地域の密接な連携が必要になってくると思われ、学校と生徒を繋ぐ上で、ＰＴＡの存在意義はますます重要な役割を担っていくと考えられます。

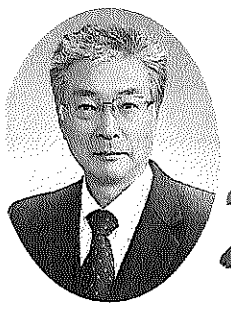
ＰＴＡについては様々な論議がありますが、私見では、学校と家庭、地域を繋ぐ椎間板のような役目だと考えています。椎間板は外からは見えませんが、ここがスムーズに動かないと、体の動きが悪くなってしまいます。加えてＰＴＡ活動の目的は、生徒たちにより良い環境を提供できるようにするために、学校と生徒をサポートをしていくことだと思いますので、今後もしっかりとサポートできるように先生方と連携していきたいと思います。

最後に、都留高等学校は歴史も古く、多方面で活躍するＯＢも多い事から、同窓会やＯＢの方々の様々なバックアップもあり、都留高生は他校に比べて非常に恵まれた環境にあると思いますが、今後を担う生徒たちがＯＢとなりＰＴＡとして、再び都留高等学校をより素晴らしい環境に導いてくれることを望みます。



三つの感謝

学校長　小俣　岳



しずかなる
全力ありて咲き初める
まず紅梅の二輪三輪
三枝　昂之

現在、日本を代表する歌人の一人であり、山梨県立文学館の館長をなさっている三枝昂之先生の歌です。三枝先生は山梨県の御出身であり、奥様の今野寿美先生と御夫婦で宮中歌会始の選者もお勤めされています。

三枝先生のお話によると、これは受験生に贈るエールの歌とのことです。受験の合否は昔、合格すると「桜咲く」、うまくいかなかった場合は「桜散る」という電報が届きました。

満開の桜が咲く前に、まずぽつりぽつりと紅梅が咲き始める、それを見て受験生は満開の桜を咲かせるためにさらに気を引き締めて頑張ってくれよ、という思いを込めた歌です。もちろんここに来るまでに、不安や焦りと、それを打ち消す闘志と「しずかなる全力」が前提であることは言うまでもありません。

最近は発表と同時にインターネットで見ることができるので、その瞬間の職員室は緊張感に溢れ、大歓声が沸きあがります。そして、祝福と、その一方で慰めと次に向かっての激励が部屋の片隅で行われます。私は常々思うのですが、自分自身あるいは家族以外の人のことでこんなに心の底から喜ぶことができる仕事は他にはないと思っています。まさに教師冥利に尽きる瞬間です。これは受験だけでなく、部活動を通しても同じことが言えます。三年次生の保護者の皆様、本当に三年間ありがとうございました。そしてお疲れ様でした。

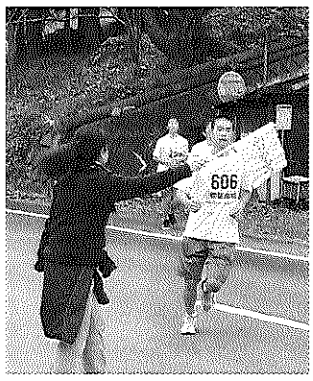
二年次生とは十二月に修学旅行に行ってきました。私にとって人生最後の修学旅行です。もちろん全員無事にと祈りつつでしたが、それ以上にこんなに楽しい修学旅行は初めてでした。生徒たちに対して何の心配もありませんでした。こんなにも素晴らしい生徒たちと、人生最後の修学旅行に行けたことは最上の喜びであり、至福であり、自分自身に対してなんと果報者であろうかとの思いでいっぱいです。

一年次生は、日に日に顔つきが落ち着いてきており、たくましくなってきています。もはや立派な都留高生になりました。四月からは中堅学年として、またいろいろな面で主力として学校全体を引っ張って行ってくれると確信しています。二年次生、一年次生の保護者の皆様に対しても、こんなに素晴らしい御子弟を送ってくださったことに本当に感謝いたします。

私たち教員は、赴任している学校を母校だと思っています。保護者の皆様の中にも都留高校の同窓の方もいらっしゃるとは思いますが、そうでない方々も御自身の母校というお気持ちで、今後とも御理解と御協力を下さりつつ、見守っていただけるようお願い申し上げます。

ＰＴＡ年間行事

月日	校内	支部	県Ｐ関係
4/8	入学式		
4/19	ＰＴＡ年次役員会・新旧常任役員会		
4/29	ＰＴＡ総会・年次総会・クラス懇談会		
5/15			高Ｐ連第１回理事会
5/19			高Ｐ連定期総会
6/15	第１回ＰＴＡ常任役員会		
7/7～7/8			関東高Ｐ連大会(神奈川県)
8/5		かがり火祭り巡回指導	
8/24～8/25			全国高Ｐ連大会(静岡県)
9/3		牛倉神社祭典巡回指導	
9/20	第２回ＰＴＡ常任役員会	通学時マナーアップ運動	
10/5		ＰＴＡ支部懇談会	
11/8	強歩大会	強歩大会	
12/8	第３回ＰＴＡ常任役員会		
1/8			高Ｐ連第２回理事会
2/15	第４回ＰＴＡ常任役員会		
3/1	卒業証書授与式		
＊4/10	入学式	＊は予定	
＊4/18	ＰＴＡ年次役員会・新旧常任役員会		
＊4/28	年次総会・ＰＴＡ総会・クラス懇談会		



皆様方の御協力のもと、生徒一人ひとりが、安全で安心かつ健全な環境の中で、学校生活を送る事が出来ました。ご多忙の中、様々な活動での準備作業や段取り等に御尽力くださり感謝申し上げます。

※新役員の選出についても、積極的な立候補、推薦をお願いいたします。

年次コラム

人は心が先行する

三年次部会長　三森　智英

三年生の皆さん、御卒業おめでとうございます。又、一、二年生の皆さん、新学年への期待に胸を膨らませていることと思います。私から皆さんに一言お伝えしたいことがあります。それは、「人は心が先行する」ということです。今日、学校に来ているのも「学校に行こう」と思ったからです。簡単な事もそうですが、難しいと思うこと、例えば「甲子園に行く」ことも、行こうと思わないと、始まりもしなければ、結果として甲子園に行くこともありません。もちろん、望んでも希望通りにならない事もあります。ただ一つ、「大きな希望を持って！」下さい。自分の可能性を一番狭めてしまっているのは自分自身かもしれません。それはとてももったいないことです。信ずれば成り。自分を信じられる程の努力をすれば必ず成し遂げられると思います。おめでとうございました。

生きて行くという事

二年次部会長　天野　武雅

朝ご飯もおいしいし、家族といられる事が幸せです。でもさ、いい時もあれば、は～って時もあるんだよね。だけどさ、なんとなく朝を迎えて朝ご飯を食べて、〝さ～今日も稼いじゃうよ〟なんて思いながら出社して冗談を言い合う。なかなか悪くないんだよね。こんな人生も。のんびりやりなよ、今日やれる事をやりなよ。自分の出来る範囲でかまわないからさ。でもさ、手を抜かないでほしいんだよね。一生懸命やってほしいんだ、出来る事があるのなら。出来る、出来ないんじゃないんだな。目一杯努力をした事自体が自信に変わるから。目を開けてごらん首を振ってごらんチャンス、転がってるよ！道路にいっぱい転がってるよ！スマホばっかり見ていると、見過ごしちゃうよ！

ＰＴＡ　今も昔も子供見守り隊

一年次部会長　湯山　知英

都留高校ＰＴＡ会員、役員の皆様にはＰＴＡ活動への御理解と御協力を頂き、ありがとうございました。一年間、都留高校のＰＴＡ活動に携わり感じた事は、親と子供が友達のように話をしたり、知らない親にも笑顔で挨拶してくる、私が都留高校の生徒だったころには無かったような気がします。子供を見守り続けてきたＰＴＡ、今から40年以上前になりますが当時も強歩大会があり、都留市の禾生に集合、秋山村を抜けて上野原の島田がゴール、千五百名もの生徒が半日以上かけてゴールを目指す。この時もＰＴＡに携わる人々が沢山、協力してくれていたんだろうなと、今思えばＰＴＡ活動で子供を見守ってきた人に感謝することも無く、ただ高校生活を楽しく過ごしていたのだろうと思います。いつの時代も親は子供の健やかな成長を願う。それにはＰＴＡ活動の役割が大切なのではないでしょうか。

卒業にあたって

三年次主任　山崎一良

卒業の時を迎え、肩の荷を下ろすことができたような気がすると同時に、少し寂しい気もしています。

三年次職員一同、本当に楽しい三年間を過ごすことができました。これもひとえに生徒達に恵まれたおかげです。

雪に見舞われた入学式がつい昨日のことのように思い出されます。「歳々年々人同じからず」という漢詩の一節がありますが、この三年間で生徒達は見違えるほど成長しました。一年次の学園祭では先輩方の勢いに圧倒されていた様子でしたが、三年次には後輩達の先頭に立ってブロックを引っ張る存在となり、頼もしく感じさせてくれました。また、昨年の修学旅行では、服装やマナーの良さから、行く先々でお褒めの言葉をいただきました。

真面目なのも三年次生の特徴です。大掃除の際など、こちらが感心するほどしっかり取り組んでくれました。このような姿勢を持ち続ければ、社会に出ても周囲から可愛がられるに違いありません。

最後になりましたが、この三年間、保護者の方々には、多大なご協力をいただきまして本当にありがとうございました。ご子弟のこれからのご活躍を、職員一同、ご祈念申し上げます。

社会で必要とされる力

進路指導主事　七澤浩彦

保護者の皆様には、日頃より本校進路指導部の活動に御理解と御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、三年次生の進路状況は、現在のところ推進等で首都大学東京、山梨大学、都留文科大学、早稲田大学、国際基督教大学等に八十名ほどが合格しました。

また、一般受験生は一月にセンター試験、二月に一般入試と天候やインフルエンザを気にしながら受験をしています。その中で国公立大学入試を二月二十五日に受験し、不安な気持ちを抱えながら本日の卒業式に列席している生徒もたくさんおります。全員がここまで頑張ってきた力を思う存分発揮し、希望の進路先へ合格できることを祈っております。

私自身この都留高校に赴任して二年目になります。立場上、大学の方とお会いする機会が多く、主に入試情報や大学の様子等をお聞きします。その中で本校卒業生の話題になることがあり、真面目に授業に取り組む生徒が多く、中には卒業時に主席として代表の挨拶をしているという話を聞きます。また、サークル活動や資格検定への取り組み、さらには大学のオープンキャンパスのスタッフとして今度は大学のために活躍している者もおり、お褒めの言葉をいただくことがあります。本当に充実した学生生活を送っている卒業生が多いようです。

合格から入学へと未知なる環境へ進んでいくことになります。社会人として国際性、知識・学力、表現力という力が必要になってきています。全ては最終的に人間関係をどう構築するかにかかってきます。今だからこそ人間力を磨いてほしいと思います。

生徒会活動

生徒会指導主事　笠井寛仁

都留高校では、一人一人の生徒が学業と部活動の両立を目指す「質の高い文武両道」を掲げており、九割近くの生徒が部活動に所属して熱心に活動しております。本年度も五月に開催された県高校総体においては、学校別順位で男子十八位、女子十七位という結果を残しました。なかでも水泳部が男女ともに団体二位に入賞、個人でも男子50m自由形、200m平泳ぎ、女子200m背泳ぎ、50mバタフライで優勝、陸上部では男子走り高跳びで優勝したのをはじめ多くの選手が上位に入賞し、関東大会に出場しました。さらに、空手女子が団体型で三位、ソフトテニス部男子が団体四位、ワンダーフォーゲル部男子が七位で関東大会出場を果たしました。そのほかにも、バドミントン部男子が四位、ハンドボール部が男子七位、女子五位、女子バスケットボール部が六位に入賞するなど、各部とも日頃の練習の成果を遺憾なく発揮する活躍ぶりでした。

一方、文化部においては、八月に開催された全国高等学校総合文化祭宮城大会に放送部、書道部、合唱部、囲碁将棋部、地球物理部が出場しました。来年度、長野県で開催される全国高等学校総合文化祭には、書道部、文芸部、地球物理部、合唱部が出場することが決まっています。また、吹奏楽部が、県吹奏楽コンクールで金賞を受賞したのをはじめ、美術部・写真部・箏曲部など多くの文化部が県高校芸術文化祭など各種大会に参加して成果を上げています。

六月には六十二回目となる伝統の若鶴祭が開催されました。舞台発表・仮装・合同企画・クラス旗そして合唱の各部門において、六つの縦割りブロックがそれぞれ知恵と工夫を凝らし、行動力と団結力を存分に発揮しながら競い合いました。歴代の先輩方に負けない盛り上がりをみせた今年の若鶴祭でした。

連携推進係とは

連携推進主任　木内政美

「連携推進係って何？」という質問をよく受ける。一体何と何をを連携させるのか、ということだろう。この場合の連携とは、中高連携、高大連携ということである。

この連携活動が係としての一つ目の柱である。中高連携では、大月市の中学校と合同の学習会や部活動への参加など今年度、活発に行われた。

高大連携はいわゆる大学入試について議論される高大接続とは違うものだ。高校と大学が連携して行う教育活動である。本校では首都大学東京、都留文化大学などと連携協定が結ばれており、本年度も両大学へ本校生徒が訪問し講義やキャンパス見学など行われた。また2年次生は山梨大学、県立大学、都留文科大学、国際基督教大学などの教授による出前授業も体験させていただいた。

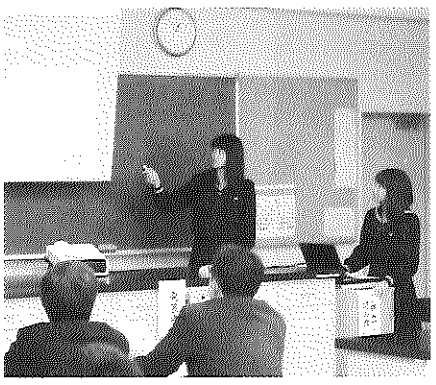
連携推進のもう一つの柱がSAクラスに関わる活動である。SAとは「Super Advanced（先進的な）」と「Super Academic（学術的な）」という意味である。今年度で2年目を迎えた。2年次生のSAキャンプではテーマを「英語」「グローバル」とし、外国人講師を招いてのアクティビティや一人二分以上英語で原稿を見ずにスピーチを行うレベルの高い活動などを行った。サイエンスツアーでは東京大学等を訪問した。3月には海外研修・国内研究を行う予定である。来年で3年目を迎えるSAクラスは進学実績はもちろん大切であるが、将来の活躍につながる能力の育成を目指すことも必要と考え活動している。

また、県の教育情報・視聴覚部会の事務局も担当した。この活動も上記活動への示唆を与えてくれるものであった。

今後も齋藤孝（『新しい学力』岩波新書）がいう新しい学力と伝統的な学力の、よい形での融合」ができるよう努めていきたい。

第二十九年度『都留高探究プロジェクト』について

総合企画係　石原みち代



フィールドワーク、実験、観察、インタビューなど、体験活動を軸とした本校独自の課題研究プログラムは、今年度、本格実施3年目を迎えました。実施当初からの懸案事項であった名称も「都留高探究プロジェクト」と正式に決定し、通称である「つるたん」という言葉を学校生活のなかで耳にするたび、探究活動が、都留高生の日常の一部として定着していることを実感します。特に、昨年度からの継続研究である「岩殿山礫岩層の堆積構造について」は、県芸術文化祭自然科学研究発表大会において、最高位である「山梨科学アカデミー賞」を受賞し、2年連続で全国総文祭への出場が決定するなど、極めて高い評価を受けました。

また、1年次からこの探究活動に取り組んできた初めての年次である現3年次生のなかには、研究成果や、活動で培ったプレゼンテーション力を発揮することで進路決定を果たした生徒も複数おり、本探究活動は3年間の継続を経て、各種大会はもとより、生徒の進路実現という面でも、予想をはるかに上回る非常に大きな成果を生み出しています。

さらに今年度は、考案した地域活性化プランについて地元の大手企業にプレゼンテーションを行うグループもあるなど、探究活動に対する生徒の積極性、自主性は、年を追うごとに高まっていると強く感じています。「都留高探究プロジェクト」は、3年後に迫った入試制度改革をはじめ、時に逆境と思われるような、社会の大きな変化にも柔軟に対応できる「真の学力」を育む取組であり、今後も全校体制で、生徒の研究活動をサポートしていきたいと考えています。

編集後記

「時には全てが無意味に思えても振り向けば道となり必ず繋がる」

思い悩んだ時、疲れ果てた時、この一節に勇気と元気を貰います。今まで過ごした日々の出来事に何一つ無駄はなくすべてが、偶然ではなく必然で繋がっているように感じます。一つひとつの出逢いを大切にどんな時も笑顔を忘れずに、自分らしく、自分のペースで歩んで行きましょう。

終わりになりましたが、本紙を発行するにあたり、お忙しい中寄稿してくださいました先生方、役員の皆様方には深く御礼申し上げます。

女性部一同